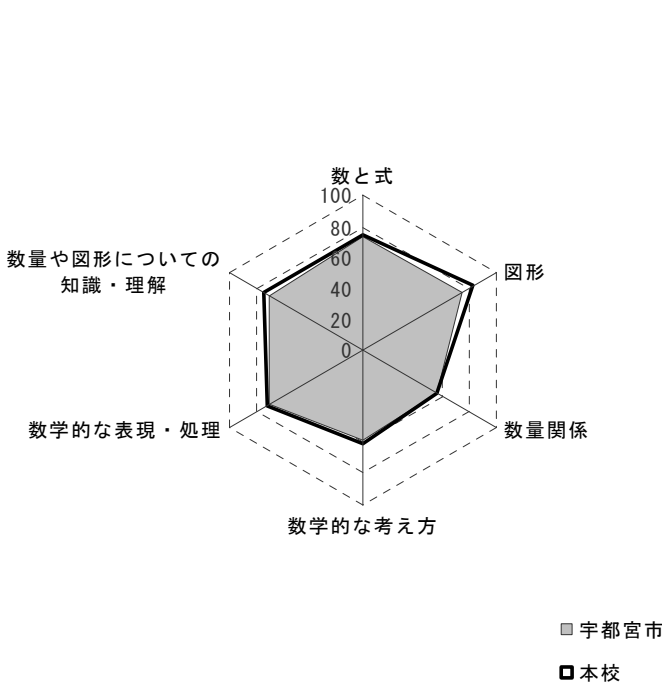


1 学年数学

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率（宇都宮市と本校の状況）

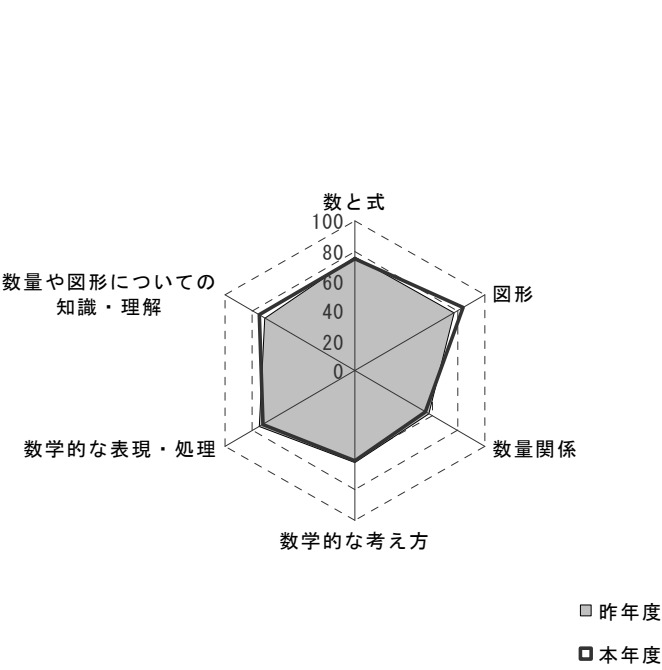


■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	数と式	73.2	74.9
	図形	74.9	83.1
	数量関係	54.5	54.2
観点別			
	数学的な考え方	58.0	60.0
	数学的な表現・処理	69.9	71.1
	数量や図形についての知識・理解	69.3	73.0

受検人数	宇都宮市	本校
	3659人	200人

(2) 領域別・観点別平均正答率（平成18年度と平成17年度の状況）



■平均正答率

		本年度	昨年度
領域別	数と式	74.9	76.3
	図形	83.1	75.6
	数量関係	54.2	56.6
観点別			
	数学的な考え方	60.0	61.8
	数学的な表現・処理	71.1	73.5
	数量や図形についての知識・理解	73.0	69.5

受検人数	本年度	昨年度
	200人	193人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
数と式 (74.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「数と式」については昨年度と同様、高いレベルで理解している生徒が多いようである。 ・ 昨年度を多少下回るものの、満足する結果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な計算問題については丁寧に、繰り返し取り組んでいく。 ・ 文章を式に表す際には、表や線分図などに表現することで苦手意識を取り除きたい。
図形 (83.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「図形」について高いレベルで理解している生徒が多いようである。 ・ 「図形についての知識・理解」について高いレベルで理解している生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な例や操作的な活動を取り入れることで、図形を抽象的なものとしてではなく、具体的なものとしてとらえることで理解を深めていきたい。さらに、図形概念を空間図形に広げていきたい。
数量関係 (54.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度と同様、「数量関係」は他領域と比べ全体の理解度がやや低いようである。 ・ 比例についての知識や理解が不足しているようである。 ・ 特に比例の活用については理解不足のようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な例を挙げ、数量関係についての理解を深めていきたい。 ・ 表、式、グラフなどひとつひとつについての知識や、表現・処理能力は身につけているようであるが、学習した内容を実際の場面で生かせるような応用力は不十分である。 ・ 式・表・グラフの関係についても再確認していきたい。